本資料の構成要素

この資料において配列・構成した要素は、以下のとおりである。

1	2・3・4	5	6	7
月	単元名・教材名・指導目標	時数	学習活動	評価規準
4月	しょしゃの やくそく [教科書 巻頭] ◎書写学習の前に、机上の整理、 書くための準備運動、姿勢・ 筆記具の持ち方を確かめる一	適宜	1 書写学習の前に行う三つの確認事項(机上の整理、 書くための準備運動、姿勢・筆記具の持ち方を確 かめる)を知る。 2 以後、書写の時間の前に一連の流れを適宜実践す ることを知る。	【態】進んで①書写学習の前の確認事項を 理解し③、学習課題に沿って②机 上の整理、書くための準備運動、姿勢・ 筆記具の持ち方を確かめる一連の流れ を実践しようとしている④。

- 1 月 ——— 学習する時期を月割りにして示している。
- 2 単元名 ——— 各単元の単元番号と題名を示している。
- 3 教材名 ——— 各教材の題名と教科書の該当ページを示している。国語教科書や他
教科と連動できる教材は、末尾に〈国語/教科名〉と示した。
- 4 指導目標 ——— 各教材の主たる学習場面において確実に身につけることが望まれる
資質・能力を指導目標として◎で示した。また、主たる学習場面で
の学習を支えたり、身につける資質・能力を定着させたりするため
に望まれる学習活動を付随的な指導目標として○で示した。なお、
関連する学習指導要領の指導事項を末尾の [] 内に記号で示した。
- 5 時数 ——— 教材ごとの学習に必要なと考えられる所要時数を算用数字で示した。
3年生以上の学年については毛筆と硬筆に分けて示しているが、毛
筆・硬筆を一体化させた指導の工夫を前提とし、学校・学級の実態
に応じて展開されたい。なお、授業時数の1単位時間は45分を想定
している。
- 6 学習活動 ——— 教材ごとに、児童が実際に活動する場面を想定し、学習活動の流れ
を段階に分けて端的に示した。
- 7 評価規準 ——— 次の三つの観点について設定している。
- 【知】…書写の「知識・技能」の評価。
- 【思】…「思考・判断・表現」の評価。書写は「知識・技能」の観
点で評価される指導事項であるが、慣例的に、書写の学習
において行われる「思考・判断・表現」の学習活動を捉え
て評価することを想定した。本書では [] 付きで示した。
- 【態】…「主体的に学習に取り組む態度」の評価。この観点に基づ
く評価では、以下の①～④の内容を全て含め、単元の目標
や学習内容等に応じて、組み合わせを工夫することが考え
られる。本書では、各文言の後に(丸数字)で示した。
- ①粘り強さ
- ②自らの学習の調整
- ③他の2観点において重点とする内容
(特に、粘り強さを発揮してほしい内容)
- ④当該単元の具体的な言語活動
(自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動)